

地域を愛し、地域の将来を託すことのできる子の育成 ～幼保小中と地域が連携した仲間づくり活動を通して～

半田市立成岩中学校

＜連携校：成岩小学校・宮池小学校・成岩幼稚園・葵保育園
宮池幼稚園・協和保育園・白山保育園・半田同胞園＞

1 はじめに

本年度成岩中学校では、愛知県からの委嘱をうけ「学校連携仲間づくり推進事業」の研究実践を行うこととなった。成岩中学校が研究推進校となり、成岩地区にある6園・2小学校との幼保小中の連携を軸として、PTA及び地域の関係者とも協力し、成岩地区の地域性や各園・各校の特徴を生かした実践を行っていくことにした。

2 研究のねらい

これまでも既に行っている各校・各園での実践や地域での行事も大切にしながら、地域の一員としての意識を強くもつ児童生徒の育成や、地域への更なる貢献ができる開かれた学校づくりを目指し、研究のねらいを下記のように定めた。

- 推進校が設置されている中学校区の幼稚園（保育園等）や小・中学校が連携することで、保護者や地域とのつながりを大切に、園・学校、保護者、地域が協働して魅力ある教育活動を企画推進していくことを通して、地域に根ざした開かれた学校づくりに努める。
- 地域の行事へ参加したり、地域の発展のための活動を行ったりする世代間交流を通して、児童生徒が地域の一員としての自覚を強くもち、地域を理解し、地域の将来を担うことのできる子供を育む。

3 研究実践

(1) ひまわりサミット

成岩中、宮池小、成岩小3校の児童会・生徒会執行部と成岩地区6園の代表者が集まり、成岩地区の課題などについて話し合う会として本年度立ち上げた。年2回の開催とし第1回目は7月7日に開催した。

成岩中生徒会執行部役員が議長となり会を進行した。今回は、今大きな社会問題になっている「ネットやSNSの使い方」について、もう一つを「成岩地区幼保小中が何か協力してやれることはないか」の二つを議題として、子供目線で地区の現状や課題について議論した。

はじめは様子をうかがっていた宮池小・成岩小の児童会役員も、次第に自分たちの意見を積極的に発言できるようになり、活発な議論が行われた。

第2回ひまわりサミットについては1月22日に成岩中にて開催した。



【ひまわりサミット】

(2) 3校合同学校運営支援協議会

昨年度、学校運営支援協議会の情報交換会で、「同じ成岩地区にある3校の学校運営支援協議会がばらばらに活動するのではなく、連携した方がよい」という意見もあり、成岩中学校区3校合同の学校運営支援協議会を7月に開催した。それぞれの学校の学校運営支援協議会の情報交換をし、他の学校の取組の優れているところは互いに取り入れてよりよい活動にしていこうとする話し合いが行われた。その中で、「地域の子供は、地域で育てる」という考

えのもと、地域の絆をより深め、地域全体で子供たちに声を掛け合える人間関係づくりをしていこうという意見が出された。会員一人一人の学校への熱い思いを聞くことができ、学校が地域の方に支えられていることを実感したとともに、合同で開催したことで、今まで以上に地域の絆が深まったことを感じる事ができた。

(3) 保育園実習

家庭科での授業実践として、中学校2年生245名が各クラス単位で保育実習を行った。生徒たちは事前に作成した絵本などを持参して、園を訪問した。中学生は園児に大人気で、読み聞かせをしたり、いっしょにゲームをしたりして楽しく充実した活動となった。園児たちは大人に見せる表情とは違う笑顔で甘えていた。また中学生も「信頼されている」ことを実感しながら、保育を体験することができた。



【園児への読み聞かせ】

4 まとめ

(1) 成果と考察

成岩地区の幼保小中及び地域との絆を深めていくことを目標に進めてきた実践であるが、研究を進めれば進めるほど、幼稚園・保育園とも密接に協力・連携しながら活動する多くの行事があり、幼保小中連携の深いつながりが存在していることを実感することができた。また、PTAや成中サポーターをはじめとして、自発的に地域や学校のために活動して下さる方々がこの地区にはたくさんいることを目の当たりにした。

実践前と実践後に実施したアンケート結果からは、3小中学校とも本研究により「小中連携」への意識が高くなった。また、成岩中学校に関しては「あいさつ運動に参加した」と「地域に守られていると感じる」の項目の割合が上がった。一番の成果としては、ひまわりサミットの議題の一つとしても取り上げた、半田市生徒会サミットにて制定された「ネット五原則」に関連する「ネットに悪口を書かれた」「ネットに他人の悪口を書いた」の項目で割合が低下したことがあげられる。

愛知県からの委嘱を受けてスタートした研究ではあるが、地域の絆を再確認するという結果となった。その絆を更に深めていくこと、そして今後の成岩地区の発展を背負っていく若い世代に伝えていくことこそ、本研究の重要な目的であることに気付かされた。その点ではアンケート結果からも、今回の実践においては、一定の成果が残せたものと自負している。

(2) 今後の課題

まず、数多くの幼保小中での連携行事や地域行事に児童生徒が携わってきた中で、生徒会役員やボランティアを希望した一部の生徒など、小規模なグループでの参加や活動が比較的多かった。今後は、保育園実習やあいさつ運動などのように、全校や学年単位で連携・参加していく活動を増やしていくことが、更なる継続・発展につながっていくと考える。

二つ目は、地域住民の強いつながりが存在している成岩地区ではあるが、園や学校の行事に対して、保護者や関係者は積極的に参加していただけているが、地域住民の方々の参加となると、どの園・学校もまだまだ少ないのが現状である。各校とも、今回の実践をきっかけとして、従来から行っている学校新聞の回覧やホームページでの情報の発信などの更なる充実を図り、開かれた学校づくりに向けての工夫をしていく必要がある。